



4月1日、1,086名の新入生を迎えて、入学式が挙行されました。本学教員、卒業生も交えての吹奏楽部の演奏、クラブ「Group Sounds SANNO」の合唱に合わせ、新入生全員による校歌斉唱が叶い、コロナ禍以来ようやく新入生の入学を祝う式典次第を遍く実施することができました。

現在は、前学期のまとめの時期に入り、1年生は、ゼミ活動はじめ、先輩諸氏から様々なアドバイス・応援を得て、早くも学期末の準備を着々進めているようです。2年生は、後学期からの「専門ゼミ」（科目名は学部によって別）等の決定に向け日程を進めると同時に、課題解決学習やShares（学びのピアサポート）等の活動においても、これまで先輩達が築いた成果をしっかりと継承しながら一層の創意工夫をもって挑戦する姿が実に頼みしく、目を細めております。3年生は、学業はもちろんのこと、課外活動においても運営の要としてリーダーシップを発揮する一方で、いよいよ就職活動本番に向けて、用意周到に準備を開始しています。その多方面にわたる活動振りには、本学学生たる所以を強く感じるところであります。今年の11月7日(土)・8日(日)には、両キャンパスにて、その学生達の諸活動の集大成である学園祭が開催されます。ぜひ保護者の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

最終学年の4年生は、自身の学業、学生生活の充実のみならず、前述のように後輩支援にも力が入ります。就職活動につきましても、既に昨年同様の高い内定率を得ております。引き続き一人ひとりの学生が納得のいく就職活動ができるよう、両キャンパスのキャリアセンターはじめ、教職協働にて支援してまいります。

ご報告が恒例になりますが、『大学ランキング2027』朝日新聞出版(2026年4月20日発行〈一部大学通信HPより抜粋〉)によりますと、高校からの評価ランキング(2025年大学通信調査)において、「小規模だが評価できる大学」(全国10位)、「面倒見が良い大学」(全国9位)、「就職に力を入れている大学」(全国21位)の高評価をいただきました。今後も、マネジメント領域の「実学教育」を行うパイオニアとしての矜持をもち、卒業生、在学生と共に教職協働にて歩んでまいります。

去年は、学校法人産業能率大学は創立100周年の節目の年を迎え、在学生全員に「本学創立者上野陽一先生の業績」に関する小論を読み、読後感想を書いてもらいました。以下に、その一編を掲載の許諾を得てご紹介させていただきます。実に深い洞察にあふれる逸文であります。私共もより一層志高く、学生、卒業生たちとともに、未来を創る若き担い手として各々の持ち前が十全に発揮できるよう、また、その個の力と力が合わさって新たな価値創造につながるよう、本学の教育力、協働力、ならびに連携力をもって邁進してまいりたく存じます。

「産業能率大学の原点には、上野陽一先生という一人の思想家の「時代を先取りする覚悟」があったことを強く感じた。

当時の日本で未知の領域であった心理学やマネジメントを社会に広め、実践の中で価値を証明しようとした姿勢は、単なる教育者の枠を超えている。上野先生は効率を追求する能率学を、人間理解と倫理観の上に築こうとした人物であった。

印象的なのは、「知識」「人柄」「徳性」を重視するという理念だ。現代のビジネス社会では成果や数字が評価の中心に置かれがちだが、上野先生の考えはそれを超えている。人間の内面的な成熟こそが、組織や社会の本質的な成長を支える、その信念が伝わってくる。

上野先生の功績は、なぜ学ぶのか、なぜ働くのか、という問いに向き合い続ける姿勢が今もこの大学に引き継がれていると感じた。

(経営学部経営学科現4年生)

最後になりましたが、保護者の皆様には、平素より後援会を通じて本学の教育活動、並びに学生の活動、諸行事に多大なるご理解、ご支援を賜り誠にありがとうございます。お陰様にて、学生達の活動が成果を上げ、学内外におきまして、これまで以上に高い評価をいただき、後輩たちがその跡を継ぐべく、日々取り組んでおります。この場を借りて、重ねて心より感謝申し上げますと共に、今年度も学生の安心安全を守り、多方面にわたる諸活動を進めてまいりたく、引き続きご支援、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。